

スマホを
きっかけに
交流しよう



▲IoT 点字ブロック
スマートフォンがIoT 点字ブロックの発信機と連動し、イヤホンを通して道案内や施設案内をすることが可能になります

▲読み上げ機能「Voice Over」
などの操作を実際に体験！



市社協では、目が見えない・見えにくい方をサポートすることを目的に、3月21日(火)「iPhone 版スマホサポーター養成講座」を開催し、高校生を含む13名が参加しました。

講師として福井県視覚障がい者支援ネットワーク羽二重ねっとをお迎えし、「心のバリアフリー」や「見えない方の暮らし」についてお話を聞いた後、iPhoneのアクセシビリティ機能の操作方法を学びました。また、(株)サカイ・シルクスクリーンの谷口祥治社長をお招きし、IoT点字ブロックの体験も行いました。

参加した皆さんからは、「初めてのことでばかりで勉強になり、実体験が分かりやすかった」、「スマホのアプリは目が見えない・見えにくい方のQOL向上のツールであることを再認識した」、「今回学んだことをいろんな方に解説できるようになりたい！」などの声が聞かれました。

見えない・見えにくい方だけではなく、スマートフォンに不慣れた高齢の方にとっては、私たちが得られている情報が得られないことで、情報の格差が生まれたり、新たな困り感が出てきます。市社協では、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが同じように情報にアクセスでき、困った時に、操作方法を教えてくれるサポーターが増えるような取り組みを行っていきます。



▲実際に使っている便利なアクセシビリティ機能（障がいのある方をサポートする機能）を学びます

食を通して
地域を元気に



～みんなの保健室「つながる食堂」～



ご近所の方から近くの会社の職員さんまで、たくさんの方でにぎわう食堂内。お持ち帰りもできます

みんなの保健室は、新栄商店街（中央1丁目）と宝永（宝永3丁目）の2か所を拠点に活動しており、暮らしにまつわる相談を受けたり、様々なサロンやイベントを開催したりしています。

「みんなの保健室 宝永」は、一人暮らしやご高齢の夫婦で暮らしている方が多い地域で、人との交流を増やしたい、地域の方々にとっての拠り所をつくりたいとの思いが出发点。2015年から、平日（10時から15時まで）に開所している他、火曜日は「火曜サロン」として元気な高齢者の方たちが集まり、自分の得意なことなどを教え合うなど、楽しい時間を過ごしています。

その中で、「食を通してたくさんのつながりが生まれていいなあ」という気持ちから2019年3月に「つながる食堂」を開始。毎月最終金曜日のお昼に、地域の方々へカレーライスを提供し、たくさんの笑顔があふれています。

代表の林田慶子さんは「子どもからご高齢の方々まで、たくさんの方に利用していただいています。最初は挨拶を交わす程度の関係が、いろいろなお話ができる関係に少しずつ変化し、距離感が縮まっているように感じます。ここでの出会い、つながりを大切に、これからも地域が元気になるよう『つながるカレー』を作り続けていきたいです」と話されていました。



みんなの保健室 Facebook ▶

